

「第6次宇都宮市総合計画改定基本計画」 (素案) について

1. 策定の目的等について

- (1) 策定の目的
- (2) 計画の位置づけ

2. 計画の構成と期間

3. 策定経過

4. 計画の特徴

- (1) 本市が目指すまちの姿「スーパースマートシティ」の実現を図る計画
- (2) 分野横断的な施策や各政策分野をけん引する戦略的な事業に重点化した計画
- (3) 将来の宇都宮を担う若年層の意見をより一層取り入れた計画

5. 計画の内容（別紙1，別紙2）

6. 今後のスケジュール

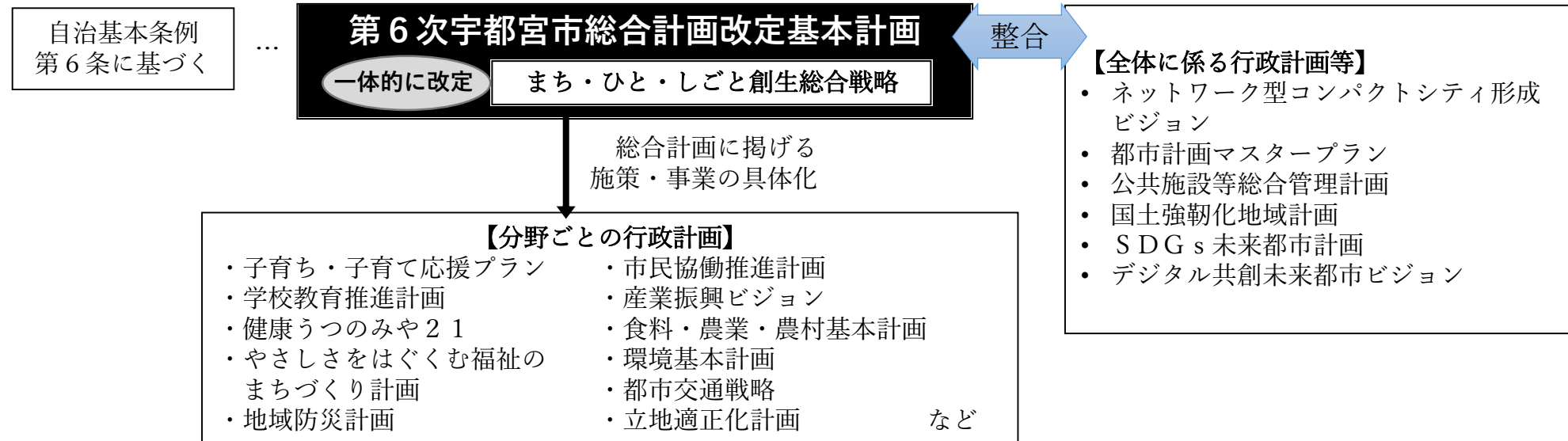
1. 策定の目的等について

(1) 策定の目的

2022（令和4）年に前期基本計画の計画期間が満了することから、社会情勢の変化や前期基本計画の達成状況をはじめとする本市の現状を踏まえ、「将来のうつのみや像（都市像）」の実現に向けてより効果的かつ効率的な政策及び施策を構築するもの

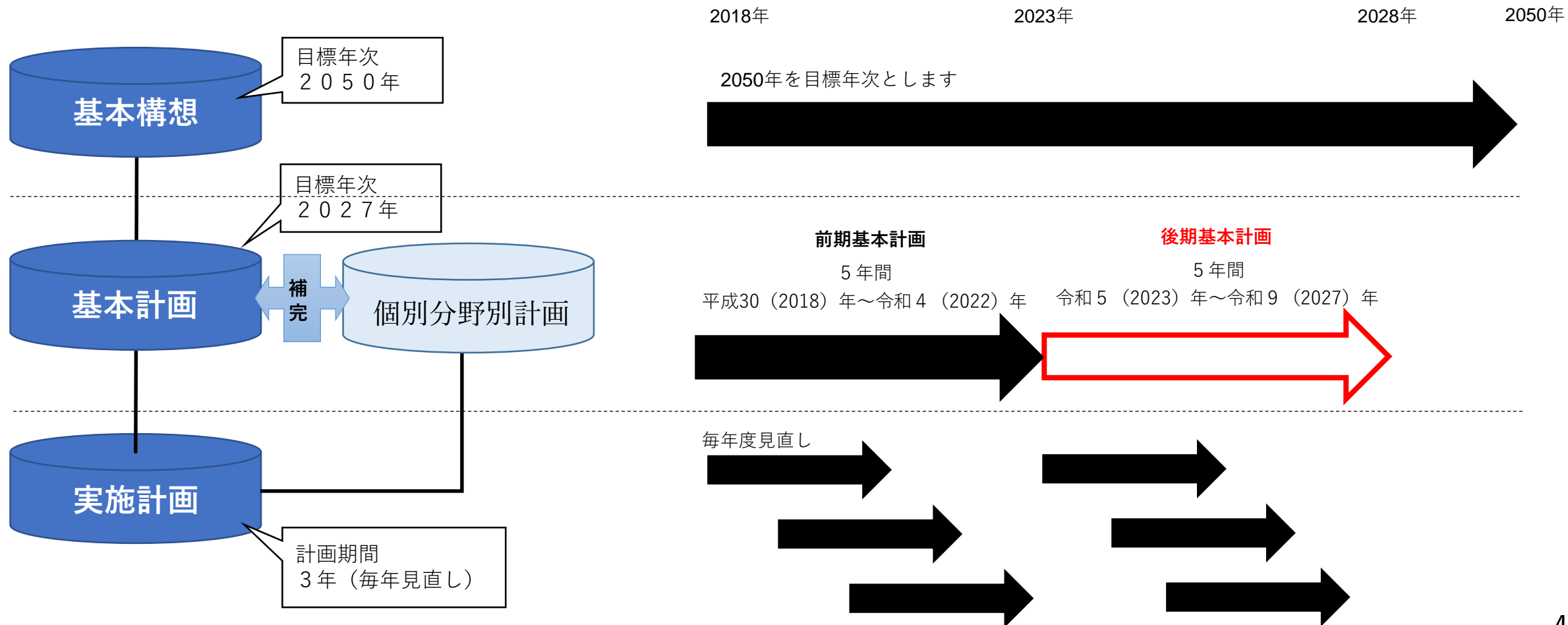
(2) 計画の位置づけ

- 将来を長期的に見通し、まちづくりの目標を掲げ、それを実現するために必要な取組の方向を明らかにしたもので、まちづくりの指針となる計画
- 本市の都市経営の基本として、市民・団体・事業者・行政など、本市を構成する主体が一体となって、総合的で計画的なまちづくりを行うための指針となる計画



2. 計画の構成と期間

- 第6次宇都宮市総合計画は「基本構想」，「基本計画」，「実施計画」の3層構造
- 改定基本計画の計画期間は令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間



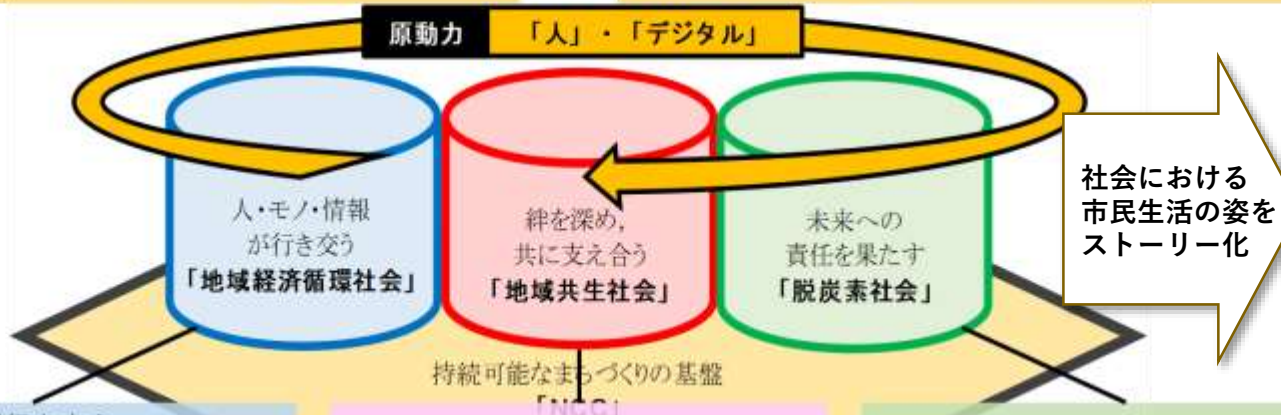
3. 策定経過

令和3年	7月	総合計画策定本部の設置（委員会3回，企画会議4回，各部会3回）
	11月～	第6次宇都宮市総合計画改定基本計画策定方針の決定
		宇都宮市総合計画市民懇談会の設置（全体会2回，各分科会2回）
		SNS（Slack）を用いた市民意見交換の実施
		専門家ヒアリングの実施（大学教授，国立研究所・シンクタンク研究員）
	12月～	うつのみや未来創造プロジェクトの実施（庁内若手職員）
令和4年	1月	政策評価（前期基本計画の総括評価）の実施
	3月	市民懇談会からの意見書受理
	6月	宇都宮市議会総合計画調査特別委員会からの報告書受理
	7月	市民懇談会分科会の再編（全体会1回，各分科会2回）
	9月～	うつのみや未来創造プロジェクトの実施（官民の若手による共創）

4. 計画の特徴

(1) 本市が目指すまちの姿「スーパースマートシティ」の実現を図る計画

- 基本構想に掲げる「将来のうつのみや像（都市像）」を実現するとともに、SDGsの達成にも貢献していくため、**概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿として、「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現を目指す。**
- 「スーパースマートシティ」を構成する3つ社会が目指す姿について、分かりやすく伝えられるよう、**各社会における「市民生活の姿」を市民目線からストーリー化**を行った。



■ストーリー化の例

定年で退職した石川さんは、ある時、知人から紹介されたシニア向けの起業セミナー等への参加を続けるうちに、長年続けてきた仕事での経験や人脈などを活かして、自分も起業することを決心しました。

他の起業家仲間との交流を深めながら準備を進め、ついに、起業家向けのコワーキングスペースを利用して会社を立ち上げることができました。石川さんは、75歳を迎える今でも、生涯現役を目指して活躍を続けています。



人・モノ・情報が行き交う
「地域経済循環社会」
女性や高齢者、障がい者、外国人など誰もが自分の力を最大限に発揮することができるとともに、地域の事業者の成長や地域内での消費・需要の拡大を図るほか、次世代産業の集積や起業支援、大谷やプロスポーツ等の地域資源の活用などにより高い付加価値を創出し、人・モノ・情報の交流をNCCが促進することで、地域内において経済が循環する豊かな社会

絆を深め、共に支え合う
「地域共生社会」
NCCの強みを生かし、性別や国籍、障がいの有無などに関わらず、子どもから高齢者まで、誰もが生きがいを持ち、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるとともに、地域に思いやりがあふれ、絆を深めながら、孤独や孤立に寄り添い、支えられる社会

未来への責任を果たす
「脱炭素社会」
移動しやすく歩いて暮らせるNCCや本市独自の「もったいない」のころのもと、公共交通の利用などによる、脱炭素型ライフスタイルの推進や再生可能エネルギーの地産地消、森林保全などにより、「カーボンニュートラル」を実現し、100年先も輝き続けられる宇都宮を未来世代に残すことができる社会

4. 計画の特徴

(2) 分野横断的な施策や各政策分野をけん引する戦略的な事業に重点化した計画

前期基本計画の策定以後に生じた新たな社会潮流を的確に捉えるとともに、多様化・複雑化する課題に対応するために、**分野横断的な施策や各政策分野をけん引する戦略的な事業に重点化**した計画とする。

個別具体的な事業は、総合計画を補完する個別分野別計画において推進

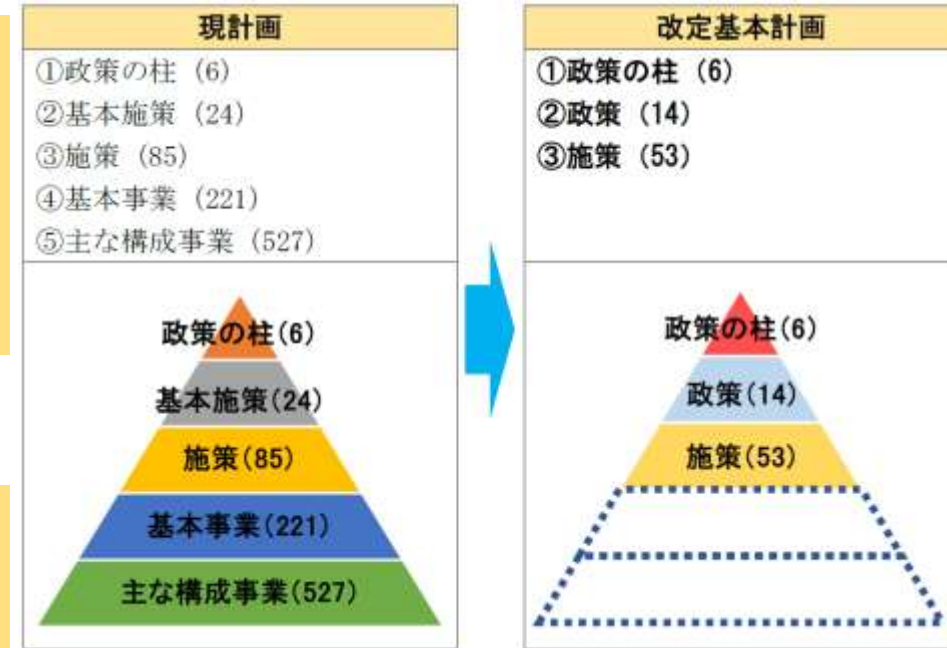
分野別計画については、基本構想に掲げる「まちづくりの基本方向（6つの未来都市）」により構成し、「戦略事業」と「施策の方向性」を体系化



複雑化・多様化する課題や市民ニーズに効果的に対応し、まちづくりを加速化していくため、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに「まちづくり好循環プロジェクト」を設定

「スーパースマートシティ」の実現に向けた「原動力」である「人づくり」と「デジタルの活用」については、「まちづくり好循環プロジェクト」や戦略事業に積極的に取り入れていく。

■施策体系の再構築について



改定基本計画策定方針を踏まえ、「まちづくり好循環プロジェクト」及び「戦略事業」に重点化を図るため、関連する基本施策・施策の統合等を行った。

4. 計画の特徴

(3) 将来の宇都宮を担う若年層の意見をより一層取り入れた計画

総合計画に将来の宇都宮を担う若年層のアイデアをより一層反映させるため、SNS (Slack) 上で意見交換を行う「宇都宮×未来フォーラム」と、それを発展させた若者による施策事業構築の場づくり「うつのみや未来創造プロジェクト」を実施

① SNSを活用した市民等による意見交換 「宇都宮×未来フォーラム」

- SNSを活用することで、感染症の影響下にあっても、「いつでも・どこでも」意見交換が可能
- 第1クールに33名、第2クールに26名の概ね30代までの市民等が参加（SNSの特徴を生かし、匿名で実施）
- 子ども・若者・子育て世帯の夢や希望がかなうまち、全国のモデルとなるスマートシティ、カーボンニュートラルなまちうつのみやの3つのテーマについて議論

② 若者による施策事業構築の場づくり 「うつのみや未来創造プロジェクト」

- 概ね30代までの若年層が議論し、具体的な政策立案を実施
- 令和3年度は、市の若手職員のみで構成し、宇都宮市のあるべき姿や今後必要となる施策事業について議論
- 令和4年度からは、「子どもが夢を持てる環境づくり」をテーマに具体的な政策提言を行うとともに、民間企業や団体の職員、大学生等を加え、官民共創で事業を検討する「共創の場づくり」を実施

意見を反映した主な事業

主な意見	位置付けた事業（まちづくり好循環プロジェクト、戦略事業）
仕事と結婚生活の両立への不安など、漠然とした不安を取り除くPR	【戦略事業】結婚や妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の充実（若者の家族観・結婚観の醸成）
プロスポーツ選手との交流や気軽にスポーツを体験できる施設の整備	【戦略事業】スポーツで魅了し、賑わいあふれ誇りあるまちの確立（スポーツ資源のフル活用に向けた環境の整備）
ウォーキング中に立ち寄れる場の整備など、運動しやすい環境と仕組みづくり	【戦略事業】いつまでも健康に生活できる環境づくり（NCCのまちづくりと連携した健康づくりの推進）
リタイア後を見据えた、若年期からの趣味づくり・仲間づくり	【地域共生社会創出プロジェクト】元気な高齢者が活躍しやすい環境づくり
転入者を迎え入れる体制の構築による、地域の担い手の確保	【地域共生社会創出プロジェクト】若者の出会いや交流を通じた社会参加促進
おしゃれな街並み整備など、現地に來てから立ち寄れる場所の充実	【戦略事業】地域特性を生かした魅力的な都市空間づくり（魅力ある都市景観づくり事業、プレイスメイキングによるまちなかの魅力向上）
大学等の教育分野との連携強化による新たな産業の創出	【戦略事業】地域特性を生かした産業集積・立地の促進（産官学金民の連携によるイノベーション創出事業）
個人の意識外で環境配慮行動を促す仕組みづくり	【戦略事業】脱炭素型ライフスタイルへの転換（環境配慮行動の促進）

5. 計画の内容, 6. 今後のスケジュール

5. 計画の内容

- 「第6次宇都宮市総合計画改定基本計画」 (素案) 概要版 別紙1
- 「第6次宇都宮市総合計画改定基本計画」 (素案) 本編 別紙2

6. 今後のスケジュール

令和4年	12月	総合計画策定本部委員会 改定基本計画(素案)に関する議員説明会 パブリックコメントの実施
令和5年	2月	総合計画市民懇談会からの意見書受理 改定基本計画に関する議員協議会 改定基本計画の策定(庁議)
	3月	計画書冊子デザインの作成